

令和 6 年度 学校評価書 (計画段階)

福岡県立

大牟田北

高等学校

72

| | | |
|---|--|--|
| <p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p> | <p>多様な生徒が個別最適な学びを見つけ、自己ベストを実現できる、地区唯一の定時制単位制高校 生徒一人一人のニーズに応じて個別最適な学びが実現できるフレックス型単位制高校の強みを生かした教育活動を通じて、自己管理能力と生涯を通して学び続ける力を身に付け、豊かな人間性を備えた人材を育成します。</p> | |
| <p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p> | <p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己管理能力 ○ 生涯にわたって意欲的に学び続けようとする力 (新しいものを学んでいこうとする行動力・戦略的学習力) ○ 習得した知識及び技能を用いて、課題を見出し、主体的・協働的に解決に取り組む力 ○ 多様性を認め、他者とのかかわりを通して、地域社会の発展に寄与する力 |
| | <p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人一人の学習ニーズに応じて選択できる教科・科目の開設 ○ 興味関心・学習意欲に応じて、大学・専門学校等の授業を受講できる学校間連携制度 ○ ICT等を活用した、個別最適化された学習活動への支援 ○ 生徒が主体的に問いを立て、「生き方」「在り方」について学ぶ総合的な探究の時間(北高自己ベスト探究)の実施 ○ 教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のより良い人間関係を育むホームルーム活動 ○ 個性の伸長を図り、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けることができるキャリア教育の実施 ○ 専門スタッフ(SC・SSW等)と連携した、組織的な教育相談及び修学支援の実施 |
| | <p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ フレックス型単位制高校での学びに対する目的意識が明確であり、主体的に学ぶ意欲を有する生徒 ○ 自己管理能力の向上に向けて努力ができる生徒 ○ 規範意識が身に付いており、他者を尊重しながら、お互いの個性を認めることができる生徒 |

学校運営計画(4月)

| 学校運営方針 | 生徒を主語にした教育活動全体を通して、生徒の「自己管理能力」「学びに向かう力」の育成を目指す。 ※ 本校が目指す自己管理能力… 「やるべきことをやり切る力」「時間管理・体調管理・スケジュール管理ができる力」「周りや楽な方に流されない力」 | | 評価 (総合) |
|--|--|---|------------|
| 昨年度の成果と課題 | 年度重点目標 | 具体的目標 | |
| <p>令和5年度は定時制単独の学校となったため、新しい取組を積極的に行うことができた。学校改編が行われた令和3年に入学した修業年限3年の生徒が卒業したが、進路状況としては、生徒の第一志望の進路実現がほぼ達成できた。</p> <p>令和6年度は、令和5年度の取組の成果を活かし、生徒の「自己管理能力」「学びに向かう力」の育成を目指す。</p> | <p>授業改善・学習指導改善の推進</p> | <p>ア 「個別最適な学び」「協動的な学び」の充実に向けた授業改善に力を入れる。 イ 授業を中心とし、Google Workspace for Educationやスタディサプリ等の活用、高大等連携事業、個別指導、特別講座等を通して、「個別最適な学び」を充実させる。 ウ Google Workspace for Educationや一人一台端末(chrome book)、電子掲示板、統合型校務支援システム生徒用端末の利活用を通して、生徒への指導支援、連絡や事務処理等の効率化を図る。 エ 教職員の「観点別評価」「ガイダンス機能」に関する資質向上を目指す。</p> | |
| <p>① 「個別最適な学び」「協動的な学び」の充実に向けた授業改善を推進、教職員の「観点別評価」「ガイダンス機能」に関する資質向上</p> <p>② 対話的・協動的職員研修の充実による教職員の同僚性向上、分掌・年次・教科単位での組織的・計画的な教育活動強化と個や学校の課題に応じた研修の受講等による人材育成</p> | <p>教職員の同僚性向上、組織力の強化と人材育成</p> | <p>ア 分掌・年次・教科単位で「報告・連絡・相談」を密にし、組織的・計画的に教育活動を実施する。起案・合議を通して、情報共有や協議を綿密に行う。実施後の評価を通して、教育活動の質の向上を図る。事跡を確実に残す。 イ 校務運営委員会等の活性化を図る。短期・中期・長期的な視点で教育課題の解決を図る。 ウ 職員研修に教職員同士の対話的・協動的職員研修を充実させる。 エ 「福岡県教職員育成指標」に基づき、個や学校の課題に応じた研修の受講を推進する。</p> | |
| <p>③ 問題の早期発見・早期対応に努め、専門機関等(SC、SSW、医療機関、通級指導等)と連携するなど、積極的な生徒指導及び修学支援の推進</p> <p>④ 「人間形成関係・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」の育成を目指した組織的・計画的なキャリア教育の推進</p> | <p>積極的な生徒指導と修学支援の推進</p> | <p>ア いじめの早期発見・早期対応に努め、「いじめがなく、安全で安心な学校づくり」に力を入れる。 イ 学校生活を送る上での「8つのチェック事項」を活用し、学校生活の振り返りを適宜実施する。 ウ 道徳教育の視点を踏まえ、公共マナーや集団生活上のルールに則った自律的な生活習慣を育成する。(学校生活上でのマナーの徹底) エ 修学状況が良好ではない生徒、生活上の困り感を抱えている生徒に対しては、早期・組織的な対応を行う。専門機関(SC・SSW・医療機関・福祉機関等)と連携して、組織的な修学支援・教育相談・特別支援教育を充実させる。</p> | |
| <p>⑤ 「社会に開かれた教育課程」の理念の下、地域、保護者等、関係機関等と連携・協働した教育の推進</p> | <p>「人間形成関係・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」の育成に力をいれたキャリア教育の実践</p> | <p>ア 教育活動全体を通して、組織的・計画的なキャリア教育を実施する。 イ 「SSTの推進」等を通じ、生徒のコミュニケーションスキルの向上を目指す。就労・進学・本校での修学継続に向けた力を育成する。 ウ 総合的な探究の時間(「北高自己ベスト探究」)を通して、4つの力※1の育成を図る。 ※1 「自己理解・自己管理能力・キャリアプランニング能力(基礎的・汎用的能力)」「自分なりの考えを持つ力(思考力・課題発見能力)」「他者に伝える力(表現力)」「学び合う力(協働しようとする態度、人間関係形成能力・社会形成能力)」 エ 特別活動、行政・地域事業の連携協力、ボランティア活動を通じ、主体性、社会参加への意欲、非認知能力を育成する。</p> | |
| | <p>「社会に開かれた教育課程」の理念の下、地域、保護者等、関係機関等と連携・協働した教育の実践</p> | <p>ア 「北高サポーター制度」を導入して、地域人材を活用した教育活動及び地域貢献活動を推進する。 イ 各教育機関や地域に対して、単位制[フレックス型]の特色や強み等を積極的に情報発信する。 ウ 学校間連携事業等を通して、他の高等学校や高等教育機関と連携した学びの充実に努める。 ※ 上記の「関係機関」には、学校評議員会・学校関係者評価委員会や「コンソーシアム構想」を含む。</p> | |

様式3

| 評価項目 | | 具体的目標 | 具体的方策 | 生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の項目等 | 生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の結果等 |
|-------|---|--|---|----------------------------------|----------------------------------|
| 教務部 | 教務課 | 観点別評価の更なる充実を図り、生徒の自立につながる学力を育成するための個別最適な授業を展開する。 | 「学び直し」「成績向上のための指導」「学習プラットフォームの更なる活用」を実践する。 | 授業アンケート、受講登録に向けたアンケート | |
| | | | 教科・科目に応じたシラバスを提示し、学習のポイントを理解させる。 | | |
| | | | 受講ガイダンスにおける疑問点を整理し、ミスのない受講登録を実現させる。 | | |
| | 企画運営課 | 教務規程や統合型校務支援システムなどを見直し、円滑な運用に努める。 | 学びの多様化に合わせた教務規程を再設定する。 | 授業アンケート | |
| | | | 生徒の実態に合わせた各種規定の見直しを行う。 | | |
| | | | 定時制課程の単位制に合わせたシステムになるよう要望していく。 | | |
| | 企画運営課 | フレックス型の特色や北高の活動を広範囲に情報発信し、充実した広報活動を行う。 | 中学校への訪問や連絡等を密にとることで情報交換および本校への理解を深めてもらう。 | 新入生アンケート | |
| | | | 広報紙・SNSやHP等を利用し、フレックス型の特色や北高の活動の認知度を上げる。 | | |
| | | | マスコミ等へ、本校教育活動を発信する働きかけをしていく。 | | |
| | 情報管理課 | 各分掌の連携・調整およびPTA・同窓会との連携を図り、諸行事の円滑な運営を行う。 | 旧年度の反省を本年度の実施に活かし、早めの準備・起案を行う。 | 振り返りアンケート、PTA役員会 | |
| | | | 関係部署との打合せを綿密に行う。 | | |
| | | | 学校行事等で保護者等と生徒が触れ合う機会をつくる。 | | |
| 情報管理課 | Google Workspace for Educationやスタディサプリ等の活用等を通して「個別最適な学び」を充実させる。 | Google Workspace for Educationの設定・管理を行い、授業での円滑な活用を促す。 | ICT活用アンケート | | |
| | | スタディサプリの設定・管理を行い、全生徒が授業や自学で活用することを目指す。 | | | |
| | | 機器・ソフトウェア等の管理を行い、授業での活用を支援する。 | | | |
| 生徒支援課 | 安全・安心な学校生活を送るため、危機管理能力を高め、発達支持的生徒指導により自他の生命を尊重する態度を育成する。 | 各授業、HRで、classroomを設定し、授業での活用や連絡の効率化等を図る。 | ICT活用アンケート | | |
| | | 一人一台端末(chromebook)の設定管理を行い、全生徒がclassroomで情報確認を行うよう促す。 | | | |
| | | ICT支援員を活用し、先生方の利活用を支援する体制を整える。 | | | |
| 生徒育成部 | 安全・安心な学校生活を送るため、危機管理能力を高め、発達支持的生徒指導により自他の生命を尊重する態度を育成する。 | 学校いじめ防止基本方針に基づく取組を行い、いじめの未然防止、早期発見、早期対応で適切な措置に努める。 | いじめアンケート、家庭用チェックリスト | | |
| | | 危機管理能力の実践的態度を育成するため、マニュアルのHP掲載やクラスルームでの配信を行い、HR活動等での意識向上を図る。 | | | |
| | | 多様な他者と協働する集団活動を通して、自他の良さを認め、互いに可能性の伸長を図ることで人権感覚を身に付ける。 | | | |
| | 保健環境課 | 体験的活動の活性化を図り、学校への所属感や連帯感を深め、自己管理能力を身に付けさせる。 | 自主的・実践的な集団活動を通して、諸活動でルールを守り、適切なマナーで取り組む態度を育成する。 | 行事毎の事後アンケート | |
| | | | 生徒会活動や委員会活動、学校行事において役割や責任を与え、目的・内容等の早期周知を図り、出席率70%以上を目指す。 | | |
| | | | 生徒会行事毎に満足度調査を実施し、内容の改善と活性化を図り、満足度70%以上を目指す。 | | |
| 保健環境課 | 心身の健康維持・増進に向けて積極的に取り組むことのできる生徒の育成に努める。 | 健康診断の結果を踏まえ治療勧告等を行い、生徒自ら健康を管理する態度を養う。 | 学校生活アンケート、いじめアンケート | | |
| | | 年次・教育相談委員会・SC・SSW・訪問相談員等と連携を図り、生徒支援に努める。 | | | |
| | | 保健室利用状況から、生徒への早期対応を行う。 | | | |
| 保健環境課 | 健康的で安全な学校生活を送ることができるように、学びを支える環境作りを図る。 | 毎日の清掃活動の徹底を図り、全生徒・全職員で校内美化に努める。ゴミの減量化を目指し、ゴミ袋の1割削減を目指す。 | 学校生活アンケート、いじめアンケート | | |
| | | 危機管理マニュアルの徹底を図り、事故やケガの防止と早期対応に努める。 | | | |
| | | 生徒が抱える課題に応じ、組織的な支援に努める。 | | | |

様式3

| | | | | | | | |
|---------|----------------|--|--|--|-------------------------------|--|--|
| キャリア教育部 | 進路支援課 | 個に応じたきめ細かいキャリア教育を実施し、生徒の第一志望進路の実現を支援する。 | 年3回の「進路希望調査」を実施し、生徒全体の動向を把握する。 卒業予定年次生との面談を随時実施する。 ポートフォリオを使い、生徒の学びの履歴を確認、活用する。 | 行事毎のアンケート | | | |
| | | 生徒の第一志望進路実現のための手立てを工夫する。 | 大牟田北版進路ロードマップを提示し、生徒に目標を定めさせる。 スタディサプリの活用や講演会を通して、生徒に主体的な学習を促していく。 模試や資格取得に目を向けさせ、積極的な受験を促す。 | 行事毎のアンケート | | | |
| | 研修推進課 | 一人一台端末の授業でのさらなる効果的な活用を目指し、ICT支援員とも連携し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実を図る授業改善に寄与する。 | ICT支援員からの定期的な研修動画の配信や職員研修を通して、一人一台端末の有効活用についての理解を深める。 公開授業月間とミニ研修会を活用して、職員同士で「個別最適な学び」や「協働的な学び」についての協議等を行い、知見を深め、よりよい授業実践につながるようにする。 授業参観週間を新たに設け、お互いに高めあう雰囲気を作成するとともに、わかりやすい授業への改善に繋げる。 | 職員アンケート、生徒向け授業アンケート | | | |
| | | 本校の実情を踏まえた研修や情報提供に努めるとともに、新しい研修の在り方を模索したり、専門スタッフとの連携・活用により、研修の充実を図り、職員の資質・能力の向上を目指す。 | 全体研修のみならず、ミニ研修会の実施を通して、互いに高めあう職員集団の醸成に寄与する。 SCやSSW、通級担当者などと連携した本校の実情に即したテーマでの研修を多く取り入れる。 生徒の実情に即した総合的な探究の時間や特別活動の在り方に関する研修を取り入れ、よりよいキャリア教育の充実と貢献する。 | 研修事後アンケート | | | |
| | | 新入生年次 | 積極的生徒指導を行う。 | 個人面談等を適宜行うことで、生徒との密なコミュニケーションを図る。 生徒への誠実な対応を心がけ、生徒にとって安全安心な、いじめのない環境を提供する。 基本的生活習慣、集団生活上のマナー、他者とのかかわり方について助言する。 | 学校生活アンケート、いじめアンケート、家庭用チェックリスト | | |
| | | | 生徒の学校生活を充実させる。 | 授業の出欠等をこまめに確認し、担任、教科担当等の連携を図ることで高い出席率を実現する。 総合的な探究の時間において育成したい力を明確に示し、長期的な見通しをもって取り組む。 学校行事への積極的な参加を促し、規範意識の向上を図る。 | 満足度アンケート、授業アンケート、単位修得率 | | |
| 学年部 | 在校生年次 | 生活上の困り感を抱えている生徒への組織的な修学支援 | 特別活動の補講必要数を半期に1回以上算出し、年次全体での補講期間を設ける。 SSWからのフィードバックの記録を、担任が生徒カルテに随時記入する。 講演会のオンライン配信とそれに伴う課題提出を促し、出席率の向上を図る。 | 学校生活アンケート・学校行事への出席率 | | | |
| | | 人間関係形成能力の育成 | SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)を計画的に実施する。 体育的行事・文化的行事への事前説明を徹底し、準備期間を充実させる。 HRや総合的な探究の時間において、生徒に資料配布係や号令係等を割り当てる。 | SSTワークシートの自己評価表・総探への出席率 | | | |
| | 卒業予定生年次 | 生活上の困り感を抱えている生徒への組織的な修学支援 | 特別活動の補講必要数を半期に1回以上算出し、年次全体での補講期間を設ける。 SSWからのフィードバックの記録を、担任が生徒カルテに随時記入する。 講演会のオンライン配信とそれに伴う課題提出を促し、出席率の向上を図る。 | 学校生活アンケート・学校行事への出席率 | | | |
| | | 人間関係形成能力の育成 | SSTを計画的に実施する。 体育的行事・文化的行事への事前説明を徹底し、準備期間を充実させる。 HRや総合的な探究の時間において、生徒に資料配布係や号令係等を割り当てる。 | SSTワークシートの自己評価表・総探への出席率 | | | |
| 事務部 | 学校運営方針に則した環境整備 | 単位制フレックス型に合わせた環境整備を行う。 | | | | | |
| | | 生徒数に合わせた必要物品・不要物品の整備を行う。 | | | | | |
| 事務部 | 校納金の納入率向上 | 柔軟な予算編成と執行を行い、教材等の整備を行う。 | | | | | |
| | | 毎月の校納金について、教員と協力して納期内納入を促進する。 一括徴収金の納入について、保護者等への理解を促す。 | | | | | |